

■コメント

1. ヘルパンギーナ

定点当たり報告数は3.58人と、前週と比べてやや減少しましたが、例年同時期と比較して多い状態が続いています。

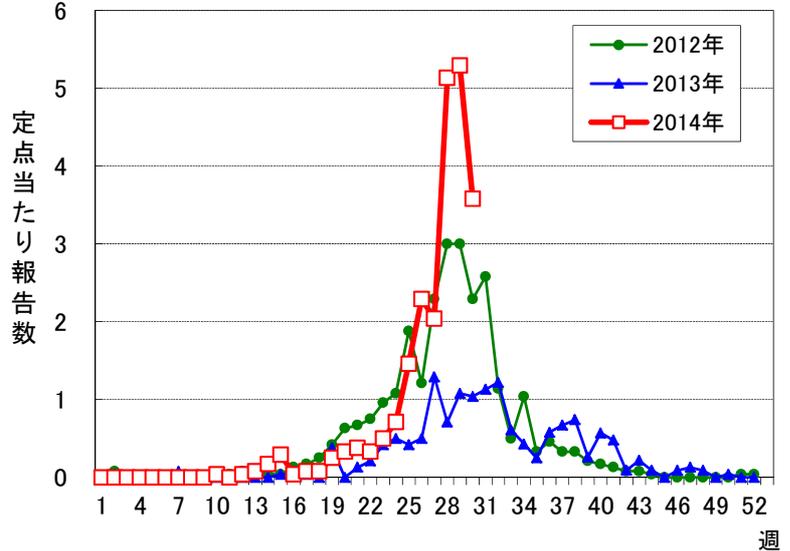
この疾患は、回復して症状がなくなっても、2~4週間の長期間にわたって便などにウイルスが排泄されるので、排泄物の適切な処理を心がける必要があります。

体調管理に注意するとともに、引き続き、手洗いなどの感染予防対策を徹底しましょう。

2. レジオネラ症

2件の報告があり、今年の累計は17件となりました。(次頁参照)

ヘルパンギーナの流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号
フィルン	インフルエンザ	1	0.03	0.12		小児科	流行性耳下腺炎	20	0.83	1.01	
小児科	咽頭結膜熱	8	0.33	0.63	↓	眼科	RSウイルス感染症	4	0.17	0.12	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	29	1.21	0.56	↗		急性出血性結膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	84	3.50	3.46	↔		流行性角結膜炎	10	1.25	1.13	
	水痘	18	0.75	0.72	↔	基幹	細菌性髄膜炎	-	-	0.06	
	手足口病	12	0.50	3.81			無菌性髄膜炎	1	0.14	0.08	
	伝染性紅斑	-	-	0.27			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.11	
	突発性発しん	13	0.54	0.72			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	百日咳	-	-	0.13			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	86	3.58	1.63	↔						

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	↔		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	100	女性(80歳代)
4	レジオネラ症	2	17	男性(60歳代)・1人、男性(70歳代)・1人

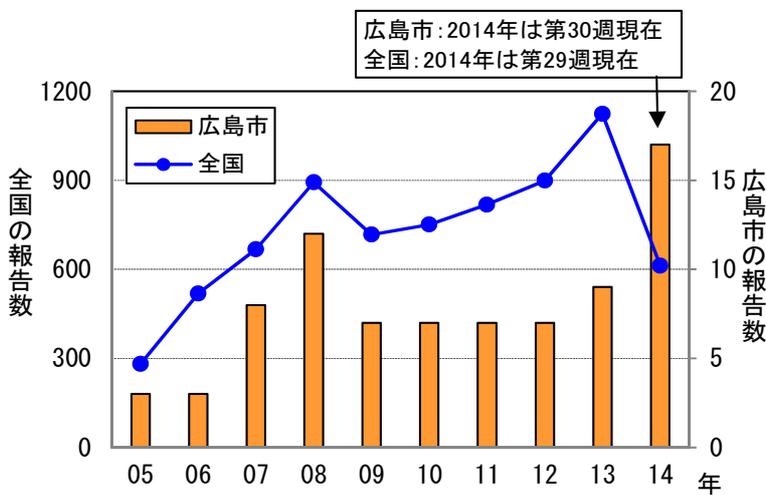
■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	広島市	第26週	第27週	第28週	第29週	第30週	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	感染性胃腸炎
							1	17	61	126	35	7	-	20	-	55	32	-	-	2	-	1	1	-	-	
報告数	広島市	第26週	1	14	76	130	32	5	-	15	1	13	-	123	25	-	4	-	2	-	2	-	1	-	-	-
	第27週	1	14	76	130	32	5	-	15	1	13	-	123	25	-	4	-	2	-	2	-	1	-	-	-	
	第28週	-	15	79	127	23	9	1	13	-	14	-	127	18	2	-	5	-	-	-	-	1	-	-	-	
	第29週	1	16	54	102	26	11	-	14	-	14	-	127	18	2	-	5	-	-	-	-	1	-	-	-	
	第30週	1	8	29	84	18	12	-	13	-	13	-	86	20	4	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	
定点当たり	広島市	第26週	0.03	0.71	2.54	5.25	1.46	0.29	-	0.83	-	2.29	1.33	-	-	0.25	-	0.14	0.14	-	-	-	-	-	-	
	第27週	0.03	0.58	3.17	5.42	1.33	0.21	-	0.63	0.04	2.04	1.00	0.08	-	0.50	-	0.29	0.29	-	-	-	-	-	-		
	第28週	-	0.63	3.29	5.29	0.96	0.38	0.04	0.54	-	5.13	1.04	-	-	0.50	-	-	0.14	0.14	-	-	-	-	-		
	第29週	0.03	0.67	2.25	4.25	1.08	0.46	-	0.58	-	5.29	0.75	0.08	-	0.63	-	-	0.14	0.14	-	-	-	-	-		
	第30週	0.03	0.33	1.21	3.50	0.75	0.50	-	0.54	-	3.58	0.83	0.17	-	1.25	-	0.14	-	-	-	-	-	-	-		
全国	第28週	0.04	0.76	1.99	4.28	0.83	0.96	0.37	0.64	0.02	3.73	0.38	0.09	0.01	0.71	0.01	0.05	0.26	0.01	0.06	-	-	-	-		
	第29週	0.04	0.75	1.67	3.89	0.77	1.24	0.29	0.65	0.02	4.94	0.39	0.12	0.02	0.60	0.03	0.07	0.24	0.01	0.02	-	-	-	-		

■新たに判明した病原体検出状況

新たな検査結果はありません。

【参考】広島市及び全国におけるレジオネラ症の年間報告数の推移



レジオネラ症の広島市における報告数が、今年(2014年)は17件となり、これまでの年間報告数の最高値(2008年の12件)をすでに超えています。患者の性別は男性が15件、年齢は60歳以上が16件とほとんどを占めています。全国的にも中高年の男性に多い傾向が見られ、年間報告数も増加傾向で推移しています。

レジオネラ症は、レジオネラ属菌による感染症で、劇症型の肺炎と一過性のポンティアック熱があります。レジオネラ属菌に汚染されたエアロゾル(細かい水のしぶき)を吸入することによって発症します。レジオネラ肺炎は2~10日の潜伏期間の後、咳、38℃以上の高熱、悪寒、胸痛、呼吸困難が出現し、胸部X線で急速進行性の肺炎の所見が認められます。

レジオネラ属菌は、もともと土壌や水環境に普通に存在する菌です。なお、人から人への感染はありません。

感染を予防するためには、不衛生な場所でのエアロゾルの吸入を避けるとともに、感染源となる可能性のある設備(循環式浴槽、ジャグジー、加湿器、冷却塔など)の衛生管理を適切に行い、レジオネラ属菌の増殖を防ぐことが重要です。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧ください。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp